

2021年夏期特別展 「貝塚市のため池周辺の植物～上久保文貴氏コレクションより～」報告

場所：貝塚市立自然遊学館 多目的室

期間：2021年7月24日（土）～8月29日（日）

夏期特別展「貝塚市のため池周辺の植物～上久保文貴氏コレクションより～」の開催にあたり

これまで『上久保文貴植物標本コレクション』そのものとして2回の特別展示を開催してきました。今回の夏期特別展においては、特に近年私たちが関心を寄せているため池周辺の植物に焦点をあてて、開催させていただくことになりました。

「ため池」やそれに連続した「田んぼ」などは、私たちが子どもの頃に身近な遊び場でもありました。そのような環境が少なくなったことなどもあり、私たちとの暮らしの中での距離が少し遠くなってきたように感じられます。

みぢかな存在であったため池やその周辺には、さまざまな生きものがともに暮らしていました。今回の展示では、そうした環境に生育している植物などの標本に限らず、ジオラマや生体展示もあわせて楽しんでいただければと思います。

こうした環境が少しでも多く貝塚市に残されていくことの一助となればと考えています。なお、この特別展開催にあたり、さまざまな面でご協力いただきました方々にこの場をおかりしてお礼申し上げます。

令和3年7月24日

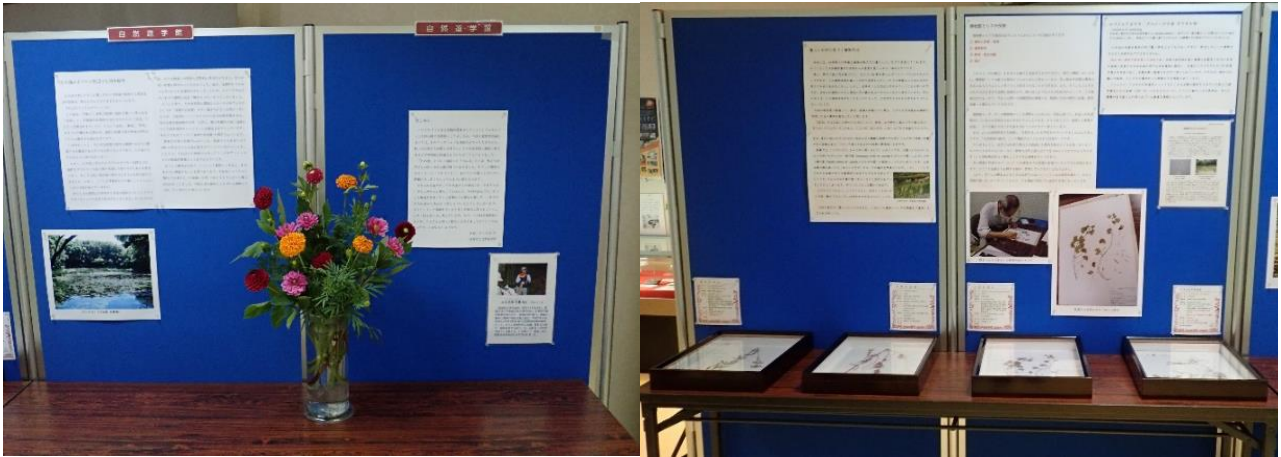
貝塚市立自然遊学館



夏期特別展における展示物のリスト

- ・貝塚市のため池に生育する植物標本 36 点
- ・ため池や田んぼのジオラマ（右の写真）
- ・水辺の生きもの（水生昆虫や草本類など）





展示解説など



上久保文貴氏コレクションの展示と水生昆虫の生体展示

ため池や水田とそこに暮らす人々の集落が創出する里地里山の風景は、私たちの心に安らぎを与えてくれます。ため池は水田を灌漑するなどの農業用水を確保するための水を貯える場であり、一方で、そのための人工物でもあります。しかし、ため池と水田およびそれらをつなぐ水路などは、稲作をする人々との長い関りを通して創りあげられた生態系であり、そこでは長い間多様で豊かな生きものを育み続けてきました。しかし、こうした生態系は人の暮らしとともにいくぶんは姿を変えていきます。

かつては水田周辺の草地やため池の堤防などにリンドウやアキノキリンソウなどの草花がたくさん自生していたのですが、それは農業との関係で定期的に草刈りがなされ、草丈が低い状態に保たれていたためでした。近年、定期的にそのような手入れがなされる場所が少なくなったため、リンドウをはじめこれらの植物と出会う機会も少なくなっていました。

ため池周辺の環境にスポットがあてられたひとつが「泉州ため池群」です。大阪府レッドリスト2014では、水田などの環境に生育・生息する生きものにも重点がおかれ、日本固有種を含め、希少な野生動植物が生育・生息し、種の多様性が高い地域を生物多様性ホットスポットとして選定することとなりました。その中で「泉州ため池群」はBランクに指定されています。

都市化の進む貝塚市においても、現在でも大小合わせて300か所ほどのため池が残されているといわれています。たとえば、千石荘の牛神池でのナニワトンボやアンペライなどが絶滅危惧種としてあげられています。そうした環境を訪れて、じっくり観察してみると、彼らの生き方に感動する出会いがたくさんあると思います。